

平成 21 年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	指導	題名	四季成り性イチゴ「なつあかり」の春植え栽培における定植時期の前進化と増収効果		
[要約] 「なつあかり」の春植え栽培では、越冬苗の定植時期を2月中旬～3月中旬に前進化することで上物収量が増加し、慣行の4月定植よりも多収となる。また、定植時期の前進化により休眠打破に必要な低温遭遇量が不足するが、収量への影響は認められない。					
キーワード	四季成り性	イチゴ	春植え栽培	技術部	南部園芸研究室

1 背景とねらい

(独) 農研機構東北農業研究センターで育成された四季成り性品種「なつあかり」は、果実品質に優れ業務需要だけでなく生食用途にも対応できる特性を持つ。しかし、慣行の4月定植作型では収量向上が課題となっていた。

そこで、作期を拡大して増収を図るため、越冬苗を用いた春定植の作型について、定植時期の違いによる花房発生の変移、収量性に及ぼす影響を検討する。

【平成19年度試験研究を要望された課題「沿岸地域におけるいちご栽培技術等の確立」(大船渡普及セ)】

2 成果の内容

(1) 「なつあかり」の上物収量は2月15日、3月15日定植で高く、4月15日以降に定植すると低下する。また、定植時期の前進化により収穫期間が拡大し、その収穫最盛期は6～7月となる。(表1、図2)。

(2) 定植～10月末までの1芽当たりの出蕾花房数は2月15日定植で9花房、3月15日定植で8花房と多く、4月15日、5月15日定植では6花房に減少する(図1)。

(3) 2月15日定植では、「なつあかり」の休眠打破に必要とされる低温遭遇時間(1500時間以上)が不足するが、収量への影響は認められない(表1、2)。

3 成果活用上の留意事項

(1) 本試験では、自然条件下で越冬した10.5cmポリポット苗を、畑土粗殻混合培地を充填した発泡スチロール栽培槽へ定植し、高設栽培による点滴かん水施肥で管理したものである。

(2) 低温期の定植となるため、給液配管等の凍結防止対策を講じるとともに、2重被覆等により保温に努める必要がある。

(3) 定植時期を前進化した場合、休眠打破が不十分となりランナー発生数が減少するため、収穫株からの採苗数は少なくなる(表2)。

4 成果の活用方法等

(1) 適用地帯又は対象者等

四季成り性イチゴ生産者、新規生産者、指導機関

(2) 期待する活用効果

四季成り性品種「なつあかり」を用いた安定生産が図られる。

5 当該事項に係る試験研究課題

(H19-08) 沿岸地域におけるいちご四季成り性品種の安定生産技術の確立(H19～21)

(2000) 夏秋どり作型における四季成り性いちごの高品質生産技術の確立

6 研究担当者

藤尾 拓也、佐藤 弘

7 参考資料・文献

岩手県試験成績書 (H19～20 南部園芸研究室)

8 試験成績の概要(具体的なデータ)

表1 定植時期と株当たり収量(2008~2009)

定植時期	株当たり収量(g/株)			株当たり収穫果数(個/株)			上物果平均 1果重(g/個)
	上物果 ^{z)w)}	B品 ^{y)}	総収量 ^{x)}	上物果 ^{z)w)}	B品 ^{y)}	総収穫果 ^{x)}	
2/15	252 a	140	692	22.6 a	23.0	60.6	11.1
3/15	241 ab	140	679	21.7 ab	22.7	63.3	11.1
4/15	171 bc	128	534	15.7 bc	20.5	56.3	10.9
5/15	129 c	108	404	12.6 c	17.2	42.1	10.3

^{z)}上物果:7g以上の正常果と15g以上の形状の劣る果実

^{y)}B品:4~7gの正常果と15~7gの形状の劣る果実 ^{x)}総収量・総収穫果:上物果+B品+格外

^{w)}上物果の異なるアルファベット間にはTukeyの多重検定により有意差が認められる(p<0.05)

* 耕種概要:採苗日:9月下旬(鉢上げ方式、10.5cmポット、培土:育苗2号)

芽数制限:定植時1芽、収穫開始以降2芽、10月以降放任 栽植密度:株間20cm 千鳥2条植

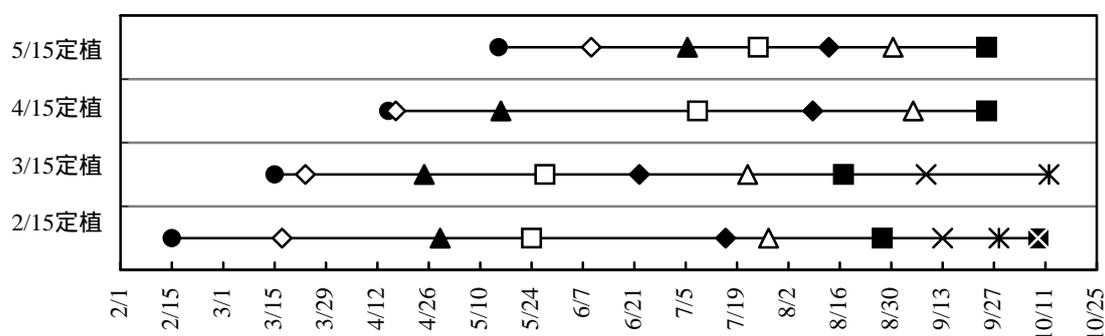


図1 定植時期と花房別出蕾日の推移(2009)

凡例 ●:定植日 ◇▲□◆△■×✕:左の記号から順に第1~9花房を示す

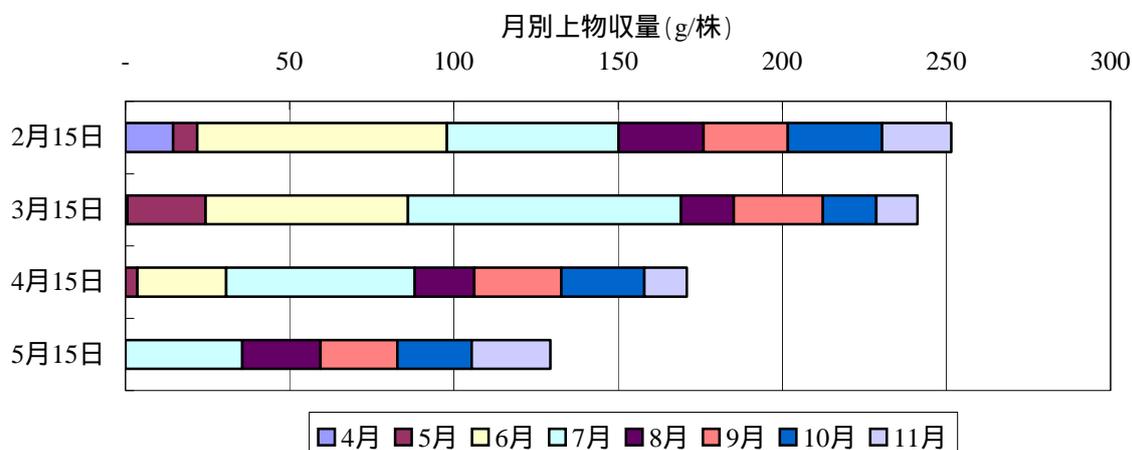


図2 定植時期と月別上物収量(2008~2009)

表2 定植時期と1芽当たりランナー発生数(2009)

定植時期	5以下低温 遭遇時間(hr)	ランナー発生数 (本/株・芽)	S.D. (標準偏差)
2/15	1370	0.2	0.7
3/15	1800	1.1	0.8
4/15	1996	2.4	1.4
5/15	2004	0.6	1.5